

# 2016 年度 東京大学 前期 英語

## 第 1 問

### A

出題範囲	要約問題
難易度	★★★★☆
所要時間	12 分
傾向と対策	文章の要旨が何なのかを見出し、第 1 段落・第 2 段落の内容をいかに簡潔にまとめられるかが今回の問題の肝となった。また、その上で制限字数内にまとめることが少し難しかったかもしれない。

#### 本文訳

「仮想家族」という概念によって、私たちは集団意識がどのように本当の家族を超えて拡張されるのかを理解しやすくなる。人類は密接な関係にある構成員によって構成された小さい集団の中で進化してきたために、自分の近親者を助けるように設計された心理状態が進化の過程で選択されてきた。しかしながら人間社会が発展するにつれて、異なる集団間での協力がより重要となった。家族における言葉や感情を非家族に拡張することで、人間は貿易・自治・防衛といった大規模な事業に着手することができる政治的・社会的共同体である「仮想家族」を創り出すことができた。

しかしこの概念だけでは、なぜ私たちがそのような共同体のすべてのメンバーを平等と見なすかをまだ説明することはできない。仮想家族は、遺伝子的なつながりがないだけでなく、近縁と遠縁との間の区別がないという点で本当の家族と異なっている。一般的に、少なくとも集団の構成員という観点から見れば、組合や母国のすべてのメンバーは同等の地位にあるが、一方で本当の家族のメンバーの間では異なった親等があり、家族の構成員や家族の境界といったことを定義づけるしっかりと決まった方法もない。私たちは、人々を結束させ、彼らの間に強い絆を創る、より根本的な要素を探す必要がある。

より深いレベルでは、人間の共同体は、普遍的だと考えられている有名な心理的な傾向によって結束されている。さまざまな文化にわたる幼少期の発達に関する研究は、あらゆる地域の人々は特定の本質的な特性が、人種・民族性・服装のような人間の社会的分類にあると考える傾向があるということを指摘している。このような心理的態度は「集団外」に対して「集団内」という概念を生成し、初めには存在しなかった一体性を集団に与えるために使われてきた。そしてそれは集団の生存確率を劇的に増大させた。しかしながら、これは「集団外」を異なる生物学的種族と見なすことにつながりかねず、敵意や争いの危険性を高める可能性がある。歴史を通じて、そしておそらく人類の先史時代を通じて、人々は日常的にほかの人たちを異なる種に属すると見なすことで彼らと戦い、支配してきたのだ。

**解答例**

社会的集団を家族の拡張型と考えるだけでは成員の平等性を説明できない。その平等性と結束は、人間を特性に従い分類する姿勢により生じた集団内外の概念に起因し、集団の生存確率を高めたが、集団外の者を異種と見なし争いを引き起こす原因にもなりえる。(120 字)

**解説****段落要旨**

第 1 段落	<p>人類はもともと家族という小さい集団の中で集団意識が構成されていた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>文明が発展するにつれ、より大規模なことを行うために家族に適用されていた集団意識を拡張し、より大きな集団である「仮想家族」を形成。</p>
第 2 段落	<p>しかし、それだけでは「仮想家族」の構成員の平等性を説明できない。</p> <p style="text-align: center;">例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝子的関係の有無</li> <li>・ 構成員の平等性 vs 親等制度</li> <li>・ 集団の境界設定における曖昧さ</li> </ul> <p style="text-align: center;">など家族とは異なる点あり。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>では「仮想家族」を結びつけているものは何か？</p>
第 3 段落	<p>人間には人種・民族性・服装などの社会的分類に意味があるとする心理的傾向がある。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「集団内」と「集団外」の概念の発生 (同じ特性をもつ人は仲間という考え方)</p> <p>〈この考え方の利点〉 集団の生存確率アップ。</p> <p>〈この考え方の欠点〉 「集団外」のものを異種と見なし、争いの種となる。</p>

**解答の方針**

文章の全体的な流れをまず見てみよう。第 1 段落でまず家族が拡張されてできた「仮想家族」の導入を行い、第 2 段落で家族と「仮想家族」の違いが説明され、最終段落では人間の集団を結びつけているもの、およびその概念の影響が述べられている。字数制限は 100～120 字となっており、東大の英語要約にしては字数がやや多めだが、今回の文章では骨格となる概念を短い言葉では表現できないため、どの要素を要約の骨格に据えるかを慎重に考える必要がある。

文章の前半では家族と「仮想家族」などについて述べられている。ここで注意すべきことは、①家族に言及しすぎないこと、②「仮想家族」に限定した要約にしないこと、の 2 点である。この文章は家族の話よりも「仮想家族」のような拡張型家族システムが話題の中心になっており、それを要約の骨にしていきたい。そのため、家族に関する話題（家族と「仮想家族」の違いの例など）に字数を使いすぎてしまうと、肝心な概念を要約に盛り込めないため、気をつけたい。また、「仮想家族」という言葉が使われているが、この言葉を要約に使って、この言葉の概念を中心に要約を構成することは危険だろう。東大の英語要約の文章はしばしば具体的な例が提示されており、要約の際にはその例を一般化し抽象化した概念を抽出して要約にまとめることが通常要求される（そのような概念は大抵文章の後半に書かれている）。今回の文章の主題は「仮想家族」ではなく、より一般的な人間の集団形成についてであり、「仮想家族」に限定した要約は避けるべきだ。そのため、今回の要約も「仮想家族」ではなく、社会的集団・人間社会・集団などのより一般的な概念を表す語を用いて要約していくのがよいだろう。

では、解答に盛り込むべき要素を考えよう。要素は以下の 3 点である。

1. 人間が属している（社会的）集団の家族との関係
2. （社会的）集団を結束しているもの
3. （社会的）集団を構成している考え方の利点・欠点

それぞれの要素について説明していこう。

### 1. 人間が属している（社会的）集団の家族との関係

この文章の本質である「（社会的）集団」に関しての簡単な導入を行う。おもに第 1 段落から第 2 段落にかけての内容を簡潔にまとめる。第 1 段落では「仮想家族」が家族の拡張型であると述べられているが、第 2 段落の冒頭ではそれだけでは集団のメンバーの平等性を説明できないとしている。では彼らを結びつけているものは何か？という流れの論理を導きたい。よってこの問題提起・導入部分は必要である。第 1 段落では、「仮想家族」がどのようにして家族の拡張型になったのか、また、第 2 段落の中では、家族と「仮想家族」の違いについて述べられているが、これらは具体例であり、拡張型についてのより詳しい説明や、「（社会的）集団」のメンバーどうしが同等で家族の構成員どうしはそうでないということについての例示をしているだけなので、要約に入れる必要はない。したがって、ここでは簡単に「集団は家族の拡張バージョンだけど、それだけだと集団のメンバーがどうして平等になっているのかわからないよね」といった意味の文から要約を始める。

### 2. （社会的）集団を結束しているもの

では、1. のように始めたあとで、実際に集団を結びつけているものは何かという論理につなげていく。第 3 段落の最初の文にあるように、普遍的な心理的傾向が集団を結束させていると述べている。そしてこの心理的傾向はどんなものかという、その次の第 2 文にあるように、「特定の本質的な特性が、人種・民族性・服装のような人間の社会的分類にあると考える傾向」とある。これはつまりどういうことかという、人種のようなカテ

ゴリーにこそ本質的な意味があると（無意識的に）考えることである。人間は、「あ、あの人は自分と同じ〇〇人だ、じゃあ仲間だね！」と考える傾向があるのだという。そしてこの心理的傾向によって生じたのが第 3 文にあるような「集団内」と「集団外」の概念で、これが結束の源であるといえる。

これらを要約にうまく盛り込む。

### 3. (社会的) 集団を構成している考え方の利点・欠点

最後に、第 3 段落の最後あたりで述べられている、集団を結束させている概念による利点と欠点をまとめる。先ほど見たように、集団の結束の源は集団内外という概念だが、これによってまず第 3 段落の第 3 文にあるように集団の生存確率を高めるという利点があった。しかしその一方で、次の文で述べられているように、「集団外」の者を異種と見なし、敵対や争いのリスクを増大させている（それを歴史が証明しているという旨が最終文にあるが、本質ではないため要約には入れない）。これが欠点である。これらを先ほど紹介した概念とうまく結びつけばよい。

よって、要約の大まかな形としては以下の流れでまとめるとよい。

集団は家族の拡張型だが、それだけでは成員の平等性を説明できない。

↓

(では集団を結束させているものは何か?)

人間を特性によって分類する姿勢によって生じた集団の内と外の概念が団結の源。

↓

この概念は生存の確率を高めたが、集団外の者を異種とみなすことで争いを引き起こすこともある。

#### 微妙な解答例

人間は小さな集団で進化してきたが、社会が発展するにつれてより大きな「仮想家族」のかたちが生まれ、それにより集団意識の拡張を考えることができる。しかしそれだけでは構成員の平等性を説明できず、社会的なカテゴリーによって人を区別する姿勢が根底にある。(120 字)

この問題を解いている人の中には、第 1 段落・第 2 段落の内容を解答に多めの割合で入れてしまう人がいるだろう。しかし、この文章は人間集団の形成の経緯や社会的集団と家族との違いを主軸に置いているわけではない。一番言いたいこと(要旨)は何が人間同士の絆を生み出しているのか、それがどのような影響をもたらすかのである。なぜならば、文章をマクロの視点で見たときに、「(家族が拡張して集団が生まれた) → (しかし両者には多くの違いがある。集団の構成員を平等とみなしてつなぎとめているものは何なのか) → (それは人間を特

性に従って分類する心理的な傾向であり、それによって集団は生存しやすくなったが争いの種にもなる)」という流れになっている。導入を行い、問題提起を行ったうえで結論を述べるという構図だ。おそらく国語の授業でもやったことがあると思われるが、筆者の主張は往々にして逆説のディスコースマーカー「しかし」の前ではなくうしろの方に書かれていることが多い。そのため、ここでは第 1 段落・第 2 段落の内容は要旨とは考えず、第 3 段落に重きを置くことが優先されるべきことだろう。上記の微妙な解答例では、第 1 段落を盛り込み過ぎて、重要な第 3 段落にあまり触れることができずにいる。これでは要旨をまとめたとはいえないだろう。したがって、このタイプに似た解答は改善の余地があると考えてよい。

### 表現

notion 「概念, 考え」

help out 「助けてやる, 手伝う」

sentiment 「感情, 情緒」

self-government 「自治」

defense 「防衛」

brotherhood 「組合, 協会」

degree of relatedness 「親等」

attribute A to B 「A を B に帰する, A の原因が B にあるとする」

coherence 「一貫性」

enhance 「高める, 増す」

hostility 「敵意, 敵対」

(松永尚也, 吉田涼佑)

## B

出題範囲	段落補充
難易度	★☆☆☆☆
所要時間	10分
傾向と対策	2016年は段落補充問題で、～2012の定番「段落整序問題」、2013～2015の「文補充問題」からは傾向が変わった。しかし問題集や他大学の過去問、模試、2006年以前の東大入試でもたびたび見かける問題形式で、しかも難易度もあまり高くなかったので特に混乱はなかっただろう。この年の問題は、その段落ごとのキーワードさえ押さえられれば正答できる程度に難易度が低く設定されていた。

## 本文訳

言論の自由は国旗やモットーのような象徴的なものに過ぎないのか？私たちが互いの軽重を問う、数ある価値観の1つに過ぎないのだろうか？あるいは、言論の自由は、絶対的とまではいわないものの、不可欠、すなわち慎重に定義された事例を除いては手放されてはいけない権利なのか？

結論からいうと、言論の自由は確かに不可欠なものである。その理由を思い出すこと、この権利の意義が問われたときのための理由を準備しておくことは大事である。

最初の理由は、考えを伝え合い評価しながら言論の自由が不可欠かを問うときにしているまさにそのことが、考えを伝え評価する権利を私たちがもっていることを示唆するということである。言論の自由（あるいはそのほかのことでよい）について話すとき、私たちは「話している」。意見の不一致を、私たちは力やコイントスのような運だめしで解決していない。ナット・ヘントフの言葉のように「私には言論の自由を認め、あなたには認めない。」と宣言しようとしないう限り、言論の自由に反対しようと議論に出てきた時点で負けになってしまう。言論の自由を否定するために言論の自由を行使するのでは意味をなさないのだ。

この純論理的な理由づけで納得できない人は人間の歴史からの議論に目を向けるとよい。歴史が教えてくれるとおり、宗教、政治の分野で真実の独占を唱えた人たちは、しばしば誤っていると示されており、しばしば滑稽なかたちで誤っているものだと示されてしまう。

近代史最大の発見はおそらく——そしてそれはその後の発見に不可欠となったのだが——信仰のもととなる科学以前の情報源を信じられないということだろう。信仰、奇跡、権威、占い、第六感、社会通念、そして主観的な確実性は過誤を促進するので、切り捨てるべきであるというのだ。

それでは、どのようにして私たちは知識を得ることができるのか？その答えは仮説と実験と呼ばれるプロセスである。私たちは事実の本質に関するアイデアを思いつく。そして現実につき合わせてそれらを試行するのだが、その時に現実世界で間違った考えが反証されることを可能にする。この手続きの仮説の部分は、もちろん言論の自由の行使に頼っている。どのアイデアがそれを試そうとする試みを切り抜けられるか見ることによってのみ、私たちは間違った考えを避けることができるのだ。

近代の初期にひとたびこのような科学的手法が主流になり始めると、古典的な世界の理解はひっくり返された。真実への道筋として、実験や議論は権威にとって代わり始めた。

この道筋のある重要なステップは、地球が太陽の周りをまわっているというガリレオの証明であり、猛烈な抵抗を乗り越えなくてはならなかった主張だ。しかし、コペルニクスの大回転が私たちの祖先にはわからなかった現在の世界への理解をかたち作った一連の出来事の中で最初にある。いまでは私たちは、どの時代や文化でも広く確信されていることは決定的に歪められているかもしれないこと、そして恐らく、その中に今日の自分たちが確信していることも含まれるであろうということを理解しており、だからこそ、新しい考えを自由にやり取りする、ということに頼るのだ。

人類の繁栄のために言論の自由が不可欠な 3 つ目の理由は、それが民主主義と、独裁政治の防止に重要だからである。20 世紀のおぞましい政権がどのように権力を得て保ったのか？それは暴力集団が自分たちの批判者や反対者を黙らせたのである。そしてひとたび権力を握ると、独裁主義はいかなる政権批判も取り締まってしまう。大量殺戮やその他の残虐行為で知られる今日の政府にも当てはまる。

なぜこのような政権は批判の表現を一切合切許さないのだろうか。実は、何千万人もの苦しむ民衆が一緒になって行動すれば、どの政権も民衆に対抗する力をもてないのだ。市民が独裁者に対抗して結束しないのは彼らが共通認識に欠けているからだ。共通認識とはつまり、誰もが自分の知っていることを共有しており、彼らがそれを共有していることを知っている、という意識である。ほかの人も同じときに自身をリスクにさらしている、と知ったときのみ、人々は自分自身をそのリスクにさらすのだ。

共通認識は公的情報によりかたち作られる。「裸の王様」の話はこの論理を描いている。小さな男の子が、王様は裸だ、と叫んだとき、彼はみんながまだ知らなかったことを伝えた訳ではない。みんなが自分の目を通して見えなかったことを言ったわけではないのだ。しかしそれでもなお彼は周りの人たちの認識を変えた。なぜなら、その時にはみんなが、ほかのみんなも王様が裸であることを知っていることを知ったからだ。そしてこの共通認識が民衆を勇気づけ、笑いをもって皇帝という権力に挑戦することを促したのである。

私たちは言論を権力者に対してだけでなく日常生活における嫌なもの、例えば要求の厳しい上司、偉そうな先生、くだらないルールを無理やり押しつける近隣住民、などに対して、彼らをさりげなく攻撃する武器としても用いる。

言論の自由に限界があるのも事実である。いわれのない個人攻撃や軍事機密の漏えい、暴力の助長などを防ぐための法律を通すということはあるかもしれない。しかしこのような例外というのは厳密に定義され、個別に正当性が付与されなければならない。これらは言論の自由を、数ある善の中の代替可能な 1 つとして扱う口実にはならない。

そしてあなたがこれらの主張に反対したいなら——つまりは私の論理の欠陥か、私の考えの誤りを指摘したいのなら——あなたにそれを許すのが言論の自由である。

## 解説

## 選択肢訳

- a) 私たちは言論を権力者に対してだけでなく日常生活における嫌なもの、例えば要求の厳しい上司、偉そうな先生、くだらないルールを無理やり押しつける近隣住民、などに対して、彼らをさりげなく攻撃する武器としても用いる。
- b) この純論理的な理由づけで納得できない人は人間の歴史からの議論に目を向けるとよい。歴史が教えてくれるとおり、宗教、政治の分野で真実の独占を唱えた人たちは、しばしば誤っていると示されており、しばしば滑稽なかたちで誤っているものだと示されてしまう。
- c) それでは、どのようにして私たちは知識を得ることができるのか？その答えは仮説と実験と呼ばれるプロセスである。私たちは事実の本質に関するアイデアを思いつく。そして現実につき合わせてそれらを試行するのだが、その時に現実世界で間違った考えが反証されることを可能にする。この手続きの仮説の部分は、もちろん言論の自由の行使に頼っている。どのアイデアがそれを試そうとする試みを切り抜けるか見ることによってのみ、私たちは間違った考えを避けることができるのだ。
- d) なぜこのような政権は批判の表現を一切合切許さないのだろうか。実は、何千万人も苦しむ民衆が一緒になって行動すれば、どの政権も民衆に対抗する力をもてないのだ。市民が独裁者に対抗して結束しないのは彼らが共通認識に欠けているからだ。共通認識とはつまり、誰もが自分の知っていることを共有しており、彼らがそれを共有していることを知っている、という意識である。ほかの人も同じときに自身をリスクにさらしている、と知ったときのみ、人々は自分自身をそのリスクにさらすのだ。
- e) この道筋のある重要なステップは、地球が太陽の周りをまわっているというガリレオの証明であり、猛烈な抵抗を乗り越えなくてはならなかった主張だ。しかし、コペルニクスの大回転が私たちの祖先にはわからなかった現在の世界への理解をかたち作った一連の出来事の中で最初にある。今では私たちは、どの時代や文化でも広く確信されていることは決定的に歪められているかもしれないこと、そして恐らく、その中に今日の自分たちが確信していることも含まれるであろうということを理解しており、だからこそ、新しい考えを自由にやり取りする、ということに頼るのだ。

## (1) 正解は b

空欄 1 以前の流れを追ってみよう。第 1 段落と第 2 段落ではこの「言論の自由は不可欠か」という問題提起と「必要だ」という結論が述べられていて、本文の序論、導入を担っている。第 3 段落では「言論の自由は言論をもって否定することができない」など、「論理」の面から言論の自由が擁護されている。

次に空欄 1 直後の第 5 段落を見てみると、「歴史」や「発見」といった点から説明がなされていることに気づくはずだ。第 3 段落と第 5 段落では述べられている分野や着眼点がまるで違うので、空欄 1 でこれらをうまく繋げなくてはならない。すると Those who are unconvinced by this purely logical reasoning can turn to an argument from human history (「この純論理的な理由づけに納得しなかった人は歴史からの議論に目を向ける

とよい) から始まる選択肢 b は、しっかり前の段落を踏まえた上で次の段落へとつなげているといえる。空欄 1 には選択肢 b が適切である。

a は「言論の自由を論理の見地から擁護する」という前の段落の内容とも、「近代史の大発見」という次の段落の内容とも無関係な卑近な例に言及しており、ここでは不適切。c は「知識を得る方法」、d は「独裁政権が批判を禁止する」話、e は「仮説と実験」が紹介されており、どれもこの空欄には当てはまらない。

(2) **正解は c**

空欄 2 の前後を確認しよう。(1) で見たとおり第 5 段落は「歴史」や「発見」という単語が見られるわけだが、この段落をまとめると「非科学的な手法が否定された」ということである。空欄 2 を挟んで第 7 段落の内容も確認してみると、this scientific approach という指示語がいきなり出てくる。空欄 2 では「科学的手法」といえるような何かが説明されているに違いない。第 7 段落の内容も簡単にまとめておくと「(前段落で説明される) 科学的手法の確立で実験や議論が従来の権威から『真理の源泉』の地位を奪い取った」ということであろう。さて、以上のことに注意しながら選択肢を検討してみる。第 2 文で「仮説と実験」というフレーズが登場しているとおり、選択肢 c では「仮説と実験」という歴史上の発明が紹介されており、「仮説」の部分で「言論の自由」が必要であることが述べられている。空欄 2 に最適である。

(3) **正解は e**

第 7 段落の内容は(2) で見たとおりであるので、空欄後の第 9 段落の内容を確認する。第 9 段落の冒頭で A third reason と述べられており、空欄 3 は second reason を説明する領域に含まれるとみてよいだろう。しかも for this reason we depend on the free exchange of new idea (「そのため私たちは新しい考えを交換することに頼る」) は明らかに締めくくりのフレーズである。すなわち第 5 から第 8 段落は 1 つの意味段落を構成するということだ。さらに first reason が論理的な説明、second reason が科学的手法という面からの説明だったことを踏まえると選択肢 e が最適である。選択肢 e はまず第 1 文で this path として前段落までで紹介されてきた、「仮定と試行」が従来の権威をひっくり返した、ということを目指すと考えられる。また、「ガリレオ」や「コペルニクス」といった例は、歴史上の事実を紹介することで前段落まで述べられてきた理論をバックアップするものだと考えられる。選択肢の後半 we now~で「社会通念が間違っているかもしれないこと」が述べられており、話を現代に戻すことで意味段落をまとめている。

(4) **正解は d**

空欄 4 の前段落となる第 10 段落では、言論の自由が重要な 3 つ目の理由として「民主主義と、独裁の防止」を挙げていて、20 世紀や現代の独裁政権が政権への批判を禁止したことが述べられている。空欄 4 のあと、第 12 段落の内容も確認すると、「共通認識」という新しいキーワードが登場している。「裸の王様」の最後のシーンでは、男の子が叫んだことで「王様は裸である」という共通の認識ができ、それで人々は笑うことができたの

だ、ということが述べられているのだが、この例は空欄 4 で述べられた説明の補足的な役割を果たしているようだ。

以上の点を踏まえると d が最適な選択肢である。d では「民衆が一致団結すれば独裁政権を倒すことができるが、それをしないのは『共通認識』がないからだ」という内容である。1 文目で「なぜ政権は批判を許さないのか」と疑問を提示するかたちが取られており、前段落からのつながりもよく、選択肢の後半では「共通認識」の説明もなされており、第 12 段落へのつながりもよい。

(5) **正解は a**

空欄 5 の前では 3 段落にわたり「政治と言論の自由」に着目した説明がなされた。一方、第 13 段落で「言論の自由は制限されなくてはならないときもあるが、そのような事例は厳密に定義されるべき」、第 14 段落で「反対意見や誤りがあれば『言論の自由』を行使してくれ」と、空欄 5 のあとでは本文のまとめに当たる段落が残るのみである。

以上の前後の文脈を押さえたうえで選択肢を確認すると、a は We also use speech as a weapon to undermine not just those who are in power (「私たちは言論を権力者にだけでなく…」) の部分が第 11 段落の「裸の王様」の例を踏まえていると考えられる。a が最適である。

**表現**

**fundamental** 「基礎的な、重要な」

**conventional** 「通俗的な、広く信じられた」

**flourish** 「繁栄する」

**monstrous** 「おぞましい、極悪非道な」

**hypothesis** 「仮説」

**dictatorship** 「独裁制」

**regime** 「政権」

**boastful** 「自慢げな」

**trivial** 「つまらない、ささいな」

(中島匠, 吉田涼佑)

# 2016 年度 東京大学 前期 英語

## 第 2 問

### A

出題範囲	自由英作文
難易度	★★★★☆
所要時間	10 分
傾向と対策	絵や写真が与えられるタイプの自由英作文において、今回と同じ形式の思ったことを述べるものが 2015・2007・2005 年度、絵の中の登場人物の対話文を考えるものが 2014・2013 年度に出題されている。2007・2005 年度のものは今回のものよりも 20 語ほど少ない語数制限での出題ではあるが、ぜひ復習の一環として解いてみてほしい。

#### 解答例

When I looked at this picture, I was a little confused at first because the head of the cat seemed to fit in such a small space between two fingers. However, I realized the trick after I looked closely. The fingers look large because they are close to the camera, but the cat is far away from the camera and appears small. That is why it looks as if the fingers are picking up the cat's head. (77 words)

訳：この写真を見たとき、初めは少し困惑してしまった。というのも、ネコの頭が 2 本の指の間という小さなスペースに収まってしまっているからだ。しかし、よく見るとそのしかけに気づいた。この 2 本の指はカメラもしくは目の近くにあるために大きく見えるが、ネコはカメラから離れたところにいて小さく見える。そういうわけで指がネコの頭をつまんでいるように見えるのである。

#### 解説

2015 年度に引き続き、絵や写真を見て思ったことを述べるタイプの自由英作文であった。絵を見て答える問題のポイントは、絵から即座に読み取れる内容を過不足なく含めることだ。語数制限も厳しめであるため、細かいポイントや人によって解釈が分かれそうな描写に触れる必要はない。具体的に言えば、ネコや指に関して触れないのはもちろんいけないが、カーペットの柄に言及するか否かはさほど得点に関係しないということだ。

以下に絵から読み取れる主な内容を挙げる。

- ① (手前の) 手指
- ② 人差し指と親指がネコをつまむようなかたちで開かれている
- ③ (カーペットの上の) ネコ

人によってさまざまな見方があるだろうが、今回はこの 3 点を即座に読み取れる、解答の必須ポイントとしたと思う。これにもとづく「あなたが思うこと」を考えていこう。まず、最も一般的な着眼点として「遠近法」

が思い当たるのではないだろうか。つまり、人差し指と親指の間の数センチの幅にネコの頭が本来収まるはずはなく、これは指が近くにある一方でネコは遠くにいるからだと考えられる。このトリックをできるだけ複雑な語彙を使わずに説明したのが本解答例である。

受験生にはあまり馴染みのない単語だろうと考えて perspective「遠近法」という単語を使わずに表現してみたが、もちろん This picture was taken in perspective.といったかたちで用いてもよい。その場合、語数に余裕が生まれることが想定されるので、ネコの寝ているポーズなど写真の内奥をより詳細に描写したり、perspectiveの意味を簡潔に説明したり、60語を超えていればほかの問題を解いたり、浮いた語数や時間を有効活用することができるため、やはり語彙はあるに越したことはないが、この場合は抽象名詞ということで perspective に合わせる動詞や前置詞がわかりにくかったのではないかと思われる。そこで失点するのも惜しいので、やはり堅実に使い慣れた語彙の範囲内で書き切るのが一番確実に点を取ることのできる解き方といえるのではないだろうか。

もちろん着眼点は遠近法のほかにも、科学技術の進歩からネコを小さく品種改良した結果こんなにもミニチュアのネコが誕生してしまったのではないか、あるいは逆に巨人がネコをつまんで食べようとしているところなのではないかとか、いろいろなものがあるので自分の英語力で書けるならば独創的な答案に挑戦してみるのも選択肢の1つである。

#### 表現

trick「しかけ、トリック」

perspective「遠近法」

(井戸雅也, 峯岸佑奈)

## B

出題範囲	自由英作文
難易度	★★★★☆
所要時間	10 分
傾向と対策	例年とは問題形式が変わったので受験生は多少焦っただろう。落ち着いて丁寧に第 1, 第 2 段落を読まないとなんが論旨なのか, またどういう結論が適当なのかがわからなくなってしまう恐れがある。いつもの自由英作文を書く力のほかに, 論旨と流れを読み取る力も必要とする問題である。

## 本文訳

動物の知性を研究するため、科学者は届かない範囲にある食べ物をとるための長い棒を動物たちに与えた。チンパンジーのような霊長類はその棒を使用し、ゾウは使用しないということがわかった。ゾウは鼻で棒を持つことはできたが、食べ物をとるのにそれを使いしなかった。それゆえ、ゾウはチンパンジーほど賢くないという結論が下された。

しかし、ワシントンの国立動物園のカンデュラという若いゾウが、近頃その考えに疑問を抱かせるような行動をとった。そのゾウは棒だけでなく、大きな四角い箱や、ほかにもいくつかの物が与えられ、彼がちょうど届かない高さのところに果物が置かれていた。彼は棒を無視したが、しばらくして、彼は箱が果物の真下にくるまで箱を蹴り始めた。そして、彼は前足で箱の上に立ち、それによって果物を鼻でとることができた。

## 解答例

(例 1) Primates displayed their intelligence to use a stick as a tool, while Kandula displayed its intelligence to choose the most suitable tool from the many items it was given. We cannot tell which one is more intelligent; using a given tool or choosing an item to use as a tool. It is possible to know how intelligent one animal is, but it is significantly more difficult to compare between animals. (70 words)

訳：霊長類は棒を道具として使用するという知性を見せたが、一方でカンデュラは、与えられた多くの物の中から最適な道具を選ぶという知性を見せた。与えられた道具を使うことと物を選んで道具として使うことのどちらがより知的なのかは我々には判断できない。動物がどれだけ知的なのかを知ることは可能だが、動物どうしで知性を比べることはずっと難しい。(70 語)

(例 2) These examples show us the difficulty of researching animal intelligence. Animals think and act differently under different circumstances, and we also have to account for the difference between individuals. It can be concluded from the second study that elephants have the capacity to choose their tools, and is equally or more intelligent than the primates. Or it could just be that Kandula is

a 'genius' in the elephant world. (69 words)

訳：この 2 つの実例は、動物の知性の研究がどれだけ難しいかを我々に示した。動物は異なる環境下では異なる考えや行動を示すうえに、個体差について考慮する必要もある。2 つ目の実験から、象には道具を選ぶことができ、霊長類と同じかそれよりも知的であると結論づけることができる。それか、カンデュラが象のなかでは「天才」だということだけのこともかもしれない。(69 語)

(例 3) The elephant's behavior refuted the previous conclusion. Kandula didn't use the stick because it was not suitable for him, and not because it was less intelligent than chimpanzees. Kandula was able to select the suitable tool to reach the food, and so it was wrong to conclude that chimpanzees are superior to elephants in intelligence. (51 words)

訳：その象の振る舞いは以前の結論の誤りを明らかにした。カンデュラが棒を使わなかったのは、棒が彼には適していなかったからであり、チンパンジーより知能が低かったからではない。カンデュラは食べ物に届くために適切な道具を選ぶことができたため、チンパンジーが知性において象より優れていると結論づけるのは間違っていた。

### 解説

第 1,2 段落の内容を踏まえて、文章の流れに沿った結論を書かなければいけない。第 1,2 段落の要約は以下のようになる。

「動物の知性を調べるために、与えられた棒をうまく使ってエサをとれるかという実験をした結果、霊長類はできてゾウはできなかった。したがって、ゾウはチンパンジーほど賢くないという結論が下された。

しかし、カンデュラという動物園のゾウが、棒を含む複数の物の中から自分が必要とする道具を選び、うまく使ってエサをとった。この実験結果は前述の結論に疑問を呈した。」

第 1 段落の冒頭や、動物の知性に関する実験が 2 つ行われていることからわかるように、この文章の論点は「動物の知性 (の研究)」である。第 3 段落もこれに関する内容でなければいけないことは明白だろう。また、「チンパンジーのほうが賢いという結論に、ある 1 匹のゾウの行動が疑問を呈したこと」から導かれる結論を述べなければならない。例えば、「動物の知性の研究の難しさ」や、「動物の知性を比べることはできない」や、「実はゾウのほうが賢い」などといった内容が考えられる。このような、まとめである第 3 段落にふさわしい結論を明記しよう。

(山藤孝介, 井戸雅也)

# 2016 年度 東京大学 前期 英語

## 第 3 問

### A

出題範囲	リスニング
難易度	★★☆☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	例年リスニングは各セクションに5つの設問が置かれてきたが、この年はA問題に4つの設問、B問題に6つの設問が置かれている。そのためA問題は少し放送が短めとなっている。設問に関しては、(7)が放送の中で答えが直接的に述べられていない問題で、やや考える必要があった。また、(9)は数字が問われる問題で集中力を要した。しかし(9)以外の設問は放送の流れを大まかに追ってさえいけば、重要なカ所を聞き逃したとしても正解できる問題であった。そのため問題の短さも踏まえて難易度は「やや易」としておいた。

### スクリプト訳

『アートインフォーカス』の時間です。私たちは毎週世界中のアートに関するニュースや論争について議論を交わします。先週は若い芸術家、とりわけデジタルメディアで作品を作る人たちが直面する経済的な困難について取り上げました。デジタルメディアの世界においては、少しのノウハウがあれば誰でも、個々の作品から完全に同一のコピーを無数に作る事ができてしまうのです。今週の大きな話題はいろいろと考えさせられる、前回とは対照的な話です。デジタル時代以前の芸術作品が、公開オークションのあらゆる記録を破っているのです。『アルジェの女たち』と呼ばれるパブロ・ピカソによる有名な絵画が、最近になって世界最高額の1億7,900万ドルで落札されました。価格が上がるにつれてオークション会場は静かになっていきました。当初の予想よりも2,000万ドル高い最終価格が示されたとき、人々は拍手喝采しました。競売人の言葉を引用すると、それは、「オークションの歴史における最も素晴らしい瞬間の1つだ!」ということです。

その作品は、ピカソが創造力を爆発させていた1954年から1955年の間に作られた15連作の最後の作品に当たります。この絵の主題はフランスのウジェーヌ・ドラクロワが1834年に描いた、アパートの中でくつろぐ3人の女性を描いた似た名前の作品『アルジェの女たち』に影響を受けています。しかし、ドラクロワの原作がほとんど写真のように写実的なスタイルで描かれているのに対して、ピカソ版のほうは写像がさまざまに歪められており、異なる角度が1画面上で同時に表されています。ドラクロワのもともとの作品では薄暗く、静かな光景が写されていますが、ピカソの方では躍動感と色彩にあふれた光景が描かれています。

ピカソは一連の作品を1955年のバレンタインデーに描き終えました。彼にとって大親友にしてライバルであったアンリ・マティスがその前の年に亡くなっており、ピカソの絵画はマティスから主題や発想を引き継いでいます。ある面では、この作品はピカソの亡き友人との思い出に捧げたものでもあるのです。

この作品はアート市場におけるインフレの強い影響を映し出してもいます。15 連作全体は、1956 年に 25 万ドルで購入されました。1997 年にはこの作品単体が 3,200 万ドルの値で売られました。そして今日、20 年足らずで、1 億 7,900 万ドルの値がついたのです。このような急激な価格の上昇には、どんな投資家でも関心を示し、注目するでしょう。私たちは今、有名画家の作品を売ることの世界的なブームを経験しています。しかしこれらの作品は人々が実際にお金を払っている額ほどの価値をもつのでしょうか。本当に絵画は何億ドルの価値をもつのでしょうか？ これには限界があるのでしょうか？ そして何よりも重要なことは、その多くが税金から出資されている美術館が作品を買う余裕がなくなったときに何が起こるのか、ということです。次に、2 人の専門家とともにこの問題を取り上げます。

### 解説

#### (6) 正解は d

##### 問題文訳

語り手によると、その絵画の売却に関して最も重要だったのは何か？

- a) 匿名の買い手に売られたこと。
- b) 見積もりよりかなり低い値段で売られたこと。
- c) 歴史的なオンラインオークションで売られたこと。
- d) 公開オークションでこれまで絵画について最高額で売られたこと。

該当箇所は第 1 段落の半ば～後半である。この放送はラジオかテレビ番組の放送をイメージしているのだろう。冒頭では前回の放送の振り返りがなされている。このカ所では sale に関する話題は出ていない。The big news of this week で話は切り替わり、今週の話へと移る。そしてそこから 1 文挟んだところで sold for 179 dollars, a new world record と述べられている。このあとの放送の流れからいって、ここが重要な点だ。さらに選択肢のなかで d) 以外は放送で触れられていないので正解は d) と確信できる。

#### (7) 正解は c

##### 問題文訳

語り手によると、ピカソの作品が、彼を感化したドラクロワの作品と最も明らかに違うのはどのような点においてか？

- a) オリジナリティの度合い。
- b) シーンの場所。
- c) 描写の鮮やかさ。
- d) 描かれている女性の数。

もともとのオリジナルであるドラクロワによる作品とピカソの作品の違いは第 2 段落後半で述べられている。「ドラクロワは写実的であるのに対し、ピカソの作品はイメージが歪んでいる。」「ドラクロワの作品は薄暗く静かだが、ピカソの作品は躍動感と色彩にあふれている。」この 2 つの対比が述べられている。選択肢の中に直接的な表現がないため迷うかもしれないが、「鮮やかさ」という点は 2 つ目の対比と一致しており、c) が正解といえる。a) はピカソの作品がドラクロワの作品に感化されている、と述べられていることから正解に見えるかもしれないが、語り手がカ点を置いて述べていることではない。b), d) は放送では述べられていないことであり、誤りである(実際 2 つの絵を見比べると確かに違うが、事実であっても放送で述べられていなければ誤りである)。

(8) **正解は c**

**問題文訳**

語り手によると、ピカソの作品はどのようにアンリ・マティスと関係するのか？

- a) 作品はピカソからマティスへのプレゼントだった。
- b) マティスがよく用いた色が使われていた。
- c) マティスから拝借した主題にもとづいていた。
- d) マティスが死んだあと、初めてピカソが書いた作品だった。

該当箇所は短い第 3 段落である。ここでピカソは主題や発想をマティスから引き継いだと述べられているので答えは c) であると導き出せるだろう。a) は聞き取りがあいまいだと選んでしまうかもしれない。作品はマティスの死後に描かれたもので、「マティスとの思い出への」プレゼント、という意味なら正しいだろう。b), d) は述べられていない。

(9) **正解は c**

**問題文訳**

語り手によると、この作品の値段は次のうちどのように上昇したか？

- a) 1956 年の 25 万ドルから現在の 1 億 7,900 万ドルへと上昇した。
- b) 1956 年の 3 万 2 千ドルから 1997 年の 1 億 7,900 万ドルへと上昇した。
- c) 1997 年の 3,200 万ドルから今の 1 億 7,900 万ドルへと上昇した。
- d) 1956 年の 25 万ドルから 1997 年の 1 億 7,900 万ドルへと上昇した。

第 4 段落の前半が該当箇所である。なお、設問に注意が必要で the price of the painting が問われている。つまりは、ピカソの『アルジェの女たち』1 作品のみの値段が問われているのだから、15 作品まとめて売られた 1956 年の情報は用いることができない。おのずと 1997 年→現在という説明になるはずであり、この時点で答えは c) のみとなる。放送では「1997 年に 3,200 万ドル、現在 1 億 7,900 万ドル」というように述べられており、

やはり c) が正解である。

**表現**

thought-provoking 「考えさせる」

comparison 「対比, 対照」

Algier 「アルジェリア」: アフリカ大陸北部にある元フランス植民地。

quote 「引用, 引用する」

dim 「薄暗い」

distort 「歪める, 歪ませる」

inflation 「価格の高騰, インフレ」

sit up 「上体を起こす, 背筋を張る, 驚く」

take notice 「特別な注意を向ける」

sit up and take notice 「(急に強い) 関心を示す」

- ・Women of Algiers in their apartment とスクリプトでは表記されており、『アパートにいるアルジェの女たち』が直訳だが、日本では『アルジェの女たち』と呼ぶのが一般的なので、「アパートにいる」の部分は省略した。
- ・パブロ・ピカソ[1881-1972]: 20 世紀の画家。スペイン出身。多作で知られ、時期によって作風もかなり異なる。『アビニヨンの娘たち』『ゲルニカ』など有名作が多数知られている。
- ・ウジェーヌ・ドラクロワ[1798-1863]: 19 世紀フランスの画家。ロマン主義の代表的存在である。有名作に『キオス島の虐殺』や『民衆を導く自由の女神』など。一説にはウィーン会議でフランス代表を務めたタレーランの実子だとする説もある。
- ・アンリ・マティス[1869-1954]: 20 世紀フランスの画家。野獣派のリーダー的存在として知られ、その独特の色使いで有名である。

(中島匠, 松永悠希)

## B

出題範囲	リスニング
難易度	★★☆☆☆
所要時間	12分
傾向と対策	会話の流れを理解できれば正解を選ぶ素直な問題が多かった。ファティマとルーカスの議論になっているので、2人の意見を分けてメモしながら聞くことを勧める。また、東大入試のリスニング全体にいえることだが、事前に問題や選択肢に目を通しておき、問題の該当箇所に来たら選択肢を吟味しながら聞くとよいだろう。利子率の話題が絡む(12)と、2つ以上の力所から正解の根拠を見つけねばならない(14)は、ほかに比べるとやや難しかったかもしれない。

## スクリプト訳

- A (司会者): コスタジオには、お2人の現代アートの専門家が、驚くべきニュースについて議論するためにお越しくされました。ルーカス・メンデスさんは20世紀のアートの専門家で雑誌『イメージ』に寄稿していらっしゃるって、ピカソについての本の著者でもいらっしゃいます。ファティマ・ナッサーさんは芸術市場と知的財産全般に特別な関心をもっておられる経済学者でいらっしゃいます。まずは、ファティマさんにお伺いしたいと思います。たくさんの人たちが、どんな芸術作品であれそれほどの価値がありうるのかと聞きたがると思いますが……。
- B (ファティマ・ナッサー): まあもちろん、どんなものでも誰かがそれに払ってもいいと思う値段だけ価値があります。もし誰かが、今回カタールの元首相がしたように1億7,900万ドル払いたいと思えば、それがその絵画の価値なのです。もしこの絵に1セントすら払っていいという人がいなければ、何の価値もないことになります。
- C (ルーカス・メンデス): いいえ、私はそれには賛成できません。価値と値段は同じことではありません。物の値段がその真の価値と一致しないことや、今回の件のようにその価値を下げることもあります。
- A: 価値を「下げる」とはどういう意味ですか？
- C: 芸術の傑作が今回のように私的所有されるようになると、それを人々が鑑賞できなくなる傾向にあります。確かに、所有者は一定期間それを博物館や美術館に貸すこともあります。しかしほとんどのケースでは、その作品は私的に保管されその姿を公から消してしまいます。博物館はこのように値段の高騰に対抗できず、結果としてピカソの『アルジェの女たち』のような重要な作品が大衆や批評家、そして一番残念なことに、若い芸術家たちに見られることがありません。このことは、それら作品のもつ影響、そして価値を減らしてしまいます。
- B: 人々には好きなように自分のお金を使う権利があるということは否定しませんよね？ もし博物館のような公的機関が対抗できないなら、それらにもっと資金を与えるかは政府次第です。そして政治家にそうするよ

う说得するのはルーカス、あなたのような人たち次第ということですよ。

C: 中には皆の物もあると思いませんか？ あなたが提案するように、もし何もかもが単にお金を一番多く払った人のもとに行くのであれば、例えば歴史的な建物や文献も売ってもいいことになります。私の意見としては、国の宝を売るのはとんでもないことです。何があろうとも売る対象になるべきではありません。そしてこの絵画は、私が思うに、「国際的な」宝なのです。

A: 別の点について話してみましょう。そうした人々がそれほどのお金を払う準備ができているのはファティマさん、なぜでしょうか。本当にそれだけ芸術を愛しているのでしょうか？

B: うーん…。

C: もちろん違いますよ！ それは投資なのです。人々は『アルジェの女たち』のような傑作の価値は上がる一方で落ちることはないと思っています。彼らはただ、お金を投資できる場所を探しているだけです。銀行が払う利率は低いとわかっていますから…。

B: ちょっと待ってください！ 人が何かを買う動機は私たちが関わることはありません。どんな理由で買ってもいいじゃないですか。やはり本当に素敵な絵ですから、芸術への愛かもしれません。それが子どもたちに残す遺産かもしれません。あるいはコレクションの一部かもしれませんし、純粋な投資ということもあります。私たちが認める動機のもとでしか何かを買ってはならない、なんて言って回ることはできません。それは個人に対するあまりにも行き過ぎた国家統制です。

C: まったくそんなことはありませんよ。私的所有に託せられないほど重要なものもあります。道路や橋などの基本的インフラ施設、防衛、環境の保護などです。私は文化にもそのような重要性があると言っているだけです。

A: まあ、ご覧のとおり、これは強い意見の相違を生じさせる話題なのです。ここで議論を終えなくてははいけません。お2人ともありがとうございました。個人的には、私ならその絵画にそれほど多くのお金は絶対に払いませんね。それが好きかさえもわかりません！ この絵画の写真は現在私たちのウェブサイトに乗っていますから、みなさんも自分の目で見て考えることができます。

そして来週は、芸術ビジネスのまったく違った面を見ていきます。大画家のスタイルを真似るのがあまりにもうまくて、偽物売って一時は何百万ドルも稼いだ画家の話をお伝えします。彼は最終的に逮捕されて投獄されましたが、彼は画家としての高い技術をもっていたがゆえに、自分自身の作品によって、最も人気のあるやり手作家の1人になりました。それは次週の『アートインフォーカス』で。

## 解説

(10) 正解は d

### 問題文訳

ファティマ・ナッサーは絵画の価値について何を言っているか。

- a) 画家の評判によって決まる。
- b) 作品の芸術的な質によって決まる。

- c) 主要な博物館の予算によって決まる。
- d) 申し出があった最も高い値段によって決まる。

B (ファティマ・ナッサー) は最初の登場人物 A (司会者) の発言 Let me turn to you, Fatima~ に対して、「誰かがその絵に払ってもいいと思う値段の分だけ価値がある」と言っている。よって正解は d)。

a)については、画家の評判に関わらず、その絵のためにこれだけ払うと言う人が 1 人でもいれば、それだけの価値があるというのがファティマの意見である。従って a)は誤り。b)も a)と同様、ファティマは作品の質と価値の係に言及していないので誤り。c)については、博物館が対抗できないような高額で作品を買い取ろうとする人がいることが話題になっているだけで、博物館の予算は作品の価値に関係ない。よって c)も誤りである。

(11) **正解は b**

**問題文訳**

ルーカス・メンデスによると、私的に所有された傑作の価値には何が起こりうるのか。

- a) もはや批評することができないので上昇しうる。
- b) 若い芸術家たちがそれをじっくり見て学ぶことができないので、減少しうる。
- c) 博物館がそれを展示しようと対抗し続けるので上昇しうる。
- d) 所有者が十分な管理を行わないかもしれないので、減少しうる。

まず、C (ルーカス・メンデス) は最初の発言 No, I can't agree with that~で、作品が私的に所有されることでその価値が diminish することがあると言っている。diminish は「減少する」の意味だから、b)と d)に絞れる。価値が減少する理由として、C の 2 番目の発言の 1 文目で、多くの場合その作品が鑑賞の対象から消えるということ述べている。4 文目では若い芸術家たちをはじめとする多くの人々はその作品を見られなくなると言い、よってその作品の影響と価値が減少すると続く。これに合うのは b)のみで、これが正解。d)所有者の管理の不備については書かれていない。

(12) **正解は c**

**問題文訳**

ルーカス・メンデスによると、なぜ人々はこのような絵画にこれほど高い値段を払うのか。

- a) それらの絵画が傑作だと思うから。
- b) 彼らの社会的地位が上がると思うから。
- c) 銀行にお金を入れるよりいいと思うから。
- d) それらの絵画がのちの世代のために保管されるべきだと思うから。

「人々がお金を出すのは芸術を愛しているからなのか」という A の質問に対して Well...と B が答えに窮している。そこに被さって C が「絵画の傑作を買っておけばその価値が上がって儲けられると信じているから、投資という意味で人々は高額で芸術作品を買っている」と述べている。同発言の最後の文で、「お金を銀行に預けておいても利子率は低くあまり増えないとわかっているから」とつけ足している。お金を銀行に預けておくより投資に使ったほうが最終的に儲けられる（と信じている）ということである。よって正解は c)。

a)に関して放送で述べられているのは、広く傑作として受け入れられていて投資すれば儲かると思うから買うのであって、個人的にその絵画を評価しているからではないということだ。したがって a)は不正解。b)は、放送で社会的地位については述べていないから不正解。d)は述べられていない。ルーカスの発言によれば、このような傑作を高額で買う人は作品そのものに興味があるのではなく、あくまで投資の対象である。

(13) **正解は b**

**問題文訳**

人々が芸術作品を買う理由としてファティマ・ナッサーが述べていないのは次のうちどれか。

- a) 自身の富を増すため。
- b) 自身の子どもたちを教育するため。
- c) 遺産として残すため。
- d) 芸術そのものを楽しむため。

B (ファティマ) は Wait a minute! から始まる発言で、人々が作品を買うさまざまな理由を挙げている。

- a) 7 文目の「単なる投資」に一致する。
- c) 5 文目の「子どもたちへの遺産」に一致する。
- d) 4 文目の「本当に芸術が好きだから」に一致する。

よって残った b)が正解。子どもたちに遺産として残すことは述べられているが、それが子どもの教育につながるとは述べていない。

(14) **正解は a**

**問題文訳**

ファティマ・ナッサーとルーカス・メンデスで意見が一致する可能性が最も高いのはどの点か。

- a) 『アルジェの女たち』はとてもよい絵だ。
- b) 道路や橋は私的に所有されるべきではない。
- c) 芸術作品を民間に売ることはその価値を下げるかもしれない。
- d) 『アルジェの女たち』のような絵画は真の芸術愛好家にだけ売られるべきだ。

ルーカスは Don't you think から始まる発言の最終文で an international treasure 「この絵は国際的な宝だ」と表現しているし、ファティマも Wait a minute! から始まる発言で it really is a very nice painting after all 「やはりこれはとても素敵な絵だ」と言っているので、正解は a)。

- b) ルーカス・メンデスの意見で、私的に所有されるべきでないものの例として道路や橋を挙げている。一方、ファティマは 4 番目の発言からわかるように、人々がどんな理由で物を買おうと個人の自由だという意見だから誤り。
- c) ファティマが最初の発言で「価値＝値段」と言っている。それに対してルーカスは最初の発言で「物の値段は真の価値と一致しないこともあるし、価値を下げることもある」と反論している。よって c) はファティマの意見と食い違うので、不適。
- d) 明らかにファティマの意見に矛盾する。ファティマは「どんな理由で買おうとするかは個人の自由で、それは本当に絵が好きだからかもしれないし、子どもに遺産を遺すためかもしれないし～」といった趣旨のことを述べている。

(15) 正解は d

#### 問題文訳

司会者は、次の「アートインフォーカス」のおもな話題は何だと言っているか。

- a) 偽物と思われていた本物。
- b) 偽物だとわかった有名な傑作。
- c) 自分の絵を何百万ものドルで売っている現代の画家。
- d) いまは自分の作品で評判を得ている元犯罪者。

番組の次週の内容については And next week より始まる A (司会者) の最後の発言中にある。2 文目の We tell the story of a painter~からもわかるように、作品ではなく画家の話なので、c), d) に絞ることができる。He once made millions of dollars from selling fakes で「偽物を持って何百万ドルも稼いだ」とあるが、オリジナル作品が何百万ものドルで売れたとは言っていないので、c) は不適。d) は放送文の内容に一致し、これが正解。

#### 表現

remarkable 「注目すべき、驚くべき」

intellectual property 「知的財産」

private ownership 「民有、私有」

storage 「保管」

inflate 「(物価を) つり上げる」

masterpiece 「傑作」

rate of interest 「利子率」

**no business of one's** 「余所事，口出しする権利がない事柄」 (=none of one's business)

**motivate** 「動機を与える」

**legacy** 「遺産，遺贈（財産）」

**approve of** 「よしとする，認める」

**state control** 「国家管理，国家統制」

**on a personal note** 「個人的には」

**old master** 「(中世後期から 18 世紀のヨーロッパの) 大画家」

**up-and-coming** 「(将来) 有望な，成功の見込みがある」

(中島匠，松永悠希)

## C

出題範囲	リスニング
難易度	★☆☆☆☆
所要時間	10分
傾向と対策	どれも該当箇所がわかりやすい素直な問題で、解きやすかったと思われる。一方で東大受験生といえども、数字の聞き取りなどは苦手意識をもつ人も多いだろう。落ち着いて、流れてきた音をちゃんとメモすることを心掛け、できる限りミスを減らしていこう。

## スクリプト訳

蚊による赤い虫刺されだらけで夏のハイキングから戻ってくると、友達に自分たちはまったく刺されなかったと言われる。あるいは、あなたがキャンプでの一晩から目が覚めると、足首や手首が虫刺されで燃えるようにかゆくなっているのに、ほかの人たちは被害を受けていない。

あなただけではない。推定で 20%の人が蚊にとって特に美味しく、いつもほかの人よりも頻繁に刺されることがわかっている。科学者は、まだこの状況に対する処置を虫よけスプレー以外に見つけていないが、どうしてほかの人よりもよく刺される人がいるのかについての意見は複数ある。

一役を担っている可能性がある要因の 1 つは血液型だ。何しろ蚊は私たちの血からタンパク質をとるために刺してくるのだし、研究によると蚊はある血液型がほかよりも美味しそうだと感じたというのだから、これは驚くことではない。ある研究によると、管理された環境では O 型の人には A 型の人の 2 倍近く頻繁に蚊が止まった。B 型の人はその中間あたりだった。また、遺伝子にもとづき、約 85%の人は皮膚から自身の血液型を示す化学的シグナルを発生し、一方の 15%の人は発生しない。蚊はその人の血液型に関わらず、その化学物質を出す人により引き寄せられる。

蚊がターゲットの位置を突き止める重要な方法の 1 つは、息に吐かれる二酸化炭素を嗅ぎつけることだ。彼らは 50 メートルも先からでも二酸化炭素を検出できる。結果として、単純により多くの息を吐く人たちが、一般には体が大きい人たちが、ほかより蚊を引き寄せやすいとわかっている。これは、子どもが一般に大人よりも刺されにくい理由の 1 つだ。

ほかの研究によって、人の皮膚の表面にもともと住んでいる細菌も蚊の引き寄せに影響するということが示唆された。2011 年の研究では、大量の細菌によって蚊は皮膚をより魅力的に感じるということを研究者が発見した。これは蚊が特に足首や足を刺しやすい理由の説明になるかもしれない。そこには細菌の巣がもともと沢山あるからだ。

総じて、根底にある遺伝的相違は、それが血液型として発現するかほかの要因として発現するかに関わらず、人々の間の蚊の引き寄せ具合の違いの 85%を説明すると推定されている。残念なことに、これらの遺伝子を改変する方法がまだない。しかしよい知らせはある。ほとんど蚊を引き寄せず、まったくといっていいほど刺されない人もいる。イギリスのある研究者のグループは、これらの人々によって発せられる化学物質をいくつか特定

した。この発見は、美味しい 20%の人さえも含んだ私たち全員に、蚊を寄せつけないような進歩的な虫よけスプレーの開発につながるかもしれない。

**解説**

(16) **正解は b**

**問題文訳**

蚊が人を刺すことについて話し手は何と言っているか。

- a) 20%の人はほとんど、またはまったく刺されない。
- b) 20%の人はほかの人よりも頻繁に刺される。
- c) 20%の人は虫よけスプレーを使っても虫刺されを防げない。
- d) 科学者たちは 20%の人に対して効く、虫刺されの新しい治療法を発見した。

第 2 段落の 2 文目 an estimated 20%~「推定で 20%の人が蚊にとって特に美味しく、いつもほかの人よりも頻繁に刺される」とあるから、b)が正解。

(17) **正解は c**

**問題文訳**

次のうち話し手が述べていないのはどれか。

- a) 蚊は人からタンパク質を得るために人を刺す。
- b) ほとんどの人は自分の血液型を示唆する化学物質を出している。
- c) 蚊の 15%は人の血液型を区別することができない。
- d) B 型の人 A 型の人よりも頻繁に蚊に刺される。

c)について、15%という数字は、第 3 段落 5 文目より、自分の血液型を示す化学物質を肌から出す人の割合である。人の血液型を区別できない蚊の割合は述べられていない。よって話し手が述べていない選択肢としては c)が正解。

a)に関しては、第 3 段落 2 文目の mosquitos bite us~「蚊は私たちの血からタンパク質をとるために刺してくる」に一致する。b)は第 3 段落 5 文目の~about 85% of people~「約 85%の人は皮膚から自身の血液型を示す化学的シグナルを発する」というカ所に一致する。d)は第 3 段落 3,4 文目 One study found~で述べられている「O 型の人 A 型の人より刺されやすく、B 型はその間」という内容と一致する。

(18) **正解は c**

**問題文訳**

話し手によると、子どもが大人より刺されにくい理由の 1 つは何か。

- a) 子どもは大人よりも動き回るから。
- b) 子どもは大人よりも皮膚がすべすべだから。
- c) 子どもは大人よりも吐き出す二酸化炭素が少ないから。
- d) 子どもは大人よりも皮膚の上にとまった蚊によく気がつくから。

第 4 段落の内容である。1 文目で「蚊は人が吐く二酸化炭素を嗅ぎつけて人の位置を特定する」、3,4 文目で「結果として、単純により多くの息を吐く人たち、一般には体が大きい人たちが、ほかより蚊を引き寄せやすいとわかっている。これは、子どもが一般に大人より刺されにくい理由の 1 つだ」とある。子どもは大人より体が小さく、吐く息（二酸化炭素）が少ないから、蚊に場所を特定されにくく刺されにくいということなので、正解は c)。

a), b), d)については述べられていない。また a)について、話し手によると子どもが吐き出す二酸化炭素が少ないのは、体が小さいからであってよく動き回るからではない。

(19) **正解は c**

**問題文訳**

話し手によると、どうして人は足首や足に刺される傾向があるのか。

- a) それらの体の部位は露出される傾向にあるから。
- b) それらの体の部位はより汗をかく傾向にあるから。
- c) それらの体の部位には沢山の細菌がいるから。
- d) それらの体の部位は触覚が敏感ではないから。

第 5 段落 2,3 文目に「大量の細菌によって蚊は皮膚をより魅力的に感じるということを研究者が発見した。これは蚊が特に足首や足を刺しやすい理由の説明になるかもしれない。そこには細菌の巣がもともと沢山あるからだ」とある。よって正解は c)。

a), b), d)については述べられていない。

(20) **正解は d**

**問題文訳**

「よい知らせ」とは何か。

- a) 人を刺さないように蚊の遺伝子を改変することが可能かもしれない。
- b) 自然と蚊を遠ざけるように人の遺伝子を改変することが可能かもしれない。
- c) 自然な状態の血液のタンパク質は、人が蚊に刺されないようにするために利用されるかもしれない。
- d) 蚊への耐性をもつ人によって自然につくられる化学物質は、もっと効果的なスプレーをつくるのに利用さ

れるかもしれない。

「よい知らせ」の内容は最終段落 3~5 文目である。その内容をまとめると、「ほとんど蚊に刺されない人もいて、そうした人が出す化学物質がいくつか特定されている。この発見は、蚊に刺されやすい人も含むすべての人に蚊を寄せつけなくする虫よけスプレーの開発につながるかもしれない」なので、正解は d)。

「よい知らせ」以下で a) 蚊の遺伝子, b) 人の遺伝子, c) 血液中のタンパク質については述べられていない。さらに b) については、最終段落 1,2 文目にあるとおり、蚊の引き寄せ具合を決める人の遺伝子を改変する方法はまだ見つかっていない。

### 表現

protein 「タンパク質」

appetizing 「食欲をそそる(ような), おいしそうな」

indicate 「示唆する」

release 「放出する」

regardless of A 「A に関わらず」

locate A 「A の位置を突き止める」

emit 「発する, 出す」

detect 「検出する」

ankle 「足首」

underlying 「根本的な」

genetic 「遺伝子の」

variation 「相違」

account for A 「A を占める」

(中島匠, 松永悠希)

# 2016 年度 東京大学 前期 英語

## 第 4 問

### A

出題範囲	文法問題
難易度	★★★★☆
所要時間	12 分
傾向と対策	文章自体がかなり長く、読解も少し難解なものであった。文章を理解したうえで文法の間違いを指摘しなければならず、全体として負担は大きくなった。

#### 本文訳

(21) 知識というのは我々の最も重要な営みである。ほかのほぼすべての営みの成功はこの営みに左右されるが、その価値というのは単に経済的なものにとどまらない。知識の追求、生産、普及、応用そして保全は文明の中心の営みである。知識というのは社会の記憶であり、過去とのつながりである。そして社会の希望であり、未来への投資である。知識を生み出しそれを実用化する能力は人類の重要な特徴である。その能力は我々が自らを社会的存在として生まれ変わらせ、変貌する方法である。それは我々がしっかりと地に足をつけながら、非現実的なことを考え続ける方法なのだ。

(22) 知識は常に不平等に分配されるある種の資本であり、より多くの知識をもつ、またはより知識を入手する手段に恵まれている人はそれらが少ない人よりも有利である。つまり知識は権力と密接な関係にある。我々は「純粋な知識」という言葉を口にしますが、知識の中に我々と世界との関係を変えないものはない。多くの場合それがよりよい関係になっていることを願いつつ。

(23) 社会として、我々は知識を生み出すことは制限されるべきではなく、知識の入手機会も万人に開かれているべきだという主義を是としている。これは民主主義的な理想である。我々は知識に関しては多ければ多いほどよいと考えている。むしろ知らないほうがよいものや一部の者だけが知っているべきものなどないと思っている。それはちょうど、表現されるべきではない見解や無知すぎるため投票すべきでない市民が存在しない、と思っているのと同じことである。

(24) 我々は情報や概念を多く生み出すほど、そしてそれらをより多くの人に入手可能にするほど、よい判断を下す可能性が高まると考えている。ゆえに我々は純粋に知識の生産と普及、つまり研究と教育を目的とする機関に多大な社会的投資を行っている。我々はそうした機関にあらゆる保護を与えており、それらが望んだように機能していないと疑われる際には心配したり、ときには怒ったりするのだ。

(25) 我々の大学にける期待には非現実的なものもある（民主主義に対する期待の一部もそうである）。教育というのは面倒な過程であり、成功を測定することもまた定義することすら難しい分野なのだ。研究も面倒であ

る。あらゆる優れた発想や科学的主張の代償には多くの失敗作がある。すべての生徒が高い教養をもっていて、すべての学問や研究が価値あるものであることは合理的に考えて望むべくもない。しかし、我々は現在これほど大規模かつ多様になっているそのシステムが我々に有害にではなく有益に機能しており、そのおかげでやりたい研究や教育ができていると信じたいのである。

**解説**

(21) 正解は c

- [a] almost all our other business は「ほかのほぼすべての営み」と訳せる。almost all で「ほとんどすべて」の意味になるので覚えておこう。なお our other business は knowledge 以外の我々の営みのことを指す。
- [b] a civilization となっており、civilization が不可算名詞であるからこれが誤りだと判断した人がいるかもしれない。しかし文明一般を指すときは不可算になるが、ある不特定の文明を指すときは可算になることもある。例えば「人々」という意味で people を使うとき不可算名詞だが、「民族」の意味で使うときには a people となったりする。よってある不特定の文明を指示していると解釈すればこの部分も正しい。
- [c] put O to use というイディオムを知っていれば[c]が間違っていることを見抜ける。use と it を入れ替えれば正しい用法となる。直訳してみても「使用をそれに置く」という日本語の不自然さに気づけるだろう。「それを使用状態に置く」、すなわち「それを使用する」という語順が正しい。
- [d] reproduce ourselves as social beings 「我々自身を社会的存在として生まれ変わらせる」は、解釈が少し難しいが文法的に間違った部分はみられない。解釈としては、「文明、社会の中心的存在であるところの知識を生み出し、運用していく中で、その活動に従事する我々もまた社会的存在として生まれ変わる」というようなことを述べているのだろう。
- [e] keep our feet on the ground 「地に足をつけたままている」は keep O C の典型的な第 5 文型で文法的には問題ない。このイディオムは日本語の「地に足をつける」と同じように、「実際的である、現実的にもの考える」というような意味である。

(22) 正解は d

- [a] a form of capital にかかる関係代名詞節で「常に不公平に配分されるものである」という意味になり、文法的に正しい。なお unevenly は un-even-ly と分解することができ、un- は unhappy や unable などの例に示されるように否定の意味をもつ接頭辞である。even は「～でさえ」と訳される副詞ではなく「平等な」という意味を表す形容詞である。-ly によって形容詞が副詞に変化する。
- [b] over people who have less (knowledge) 「知識のより少ない人々よりも」と、less のあとに knowledge が省略されていることに気づいてほしい。over は advantages にかかる前置詞で「～に対して」という意味になる。
- [c] This means that knowledge stands で「つまり知識は～にあるということである」という意味になる。This means が文の主語と動詞であり、that 節が目的格である。knowledge stands は that 節中の主語と動詞で

ある。

- [d] knowledge は集合名詞であるが単数扱いで複数形をもたない。ゆえに for their own sake というのは誤りで for its own sake が正しい。(21),(22)の冒頭で Knowledge is と書かれていることからそれはわかる。注意力の問われる部分である。
- [e] that does not put us「我々を～におかない」は nothing we learn にかかる関係代名詞節である。まず nothing を(which) we learn という関係詞節が修飾する。それを全体で 1 つの名詞として that does not put us on 以下の関係詞がかかる。直訳すれば「我々が学ぶものの中で我々を世界と新たな関係に置かないものはない」となるが、我々が学ぶものとは知識にほかならないので全訳では知識と訳した。nothing や everything のような名詞は 3 人称単数扱いなので覚えておこう。

(23) **正解は a**

- [a] should がうしろにあることから access it が主語になっていることがわかる。しかし access 「入手機会, 利用機会」を名詞で用いる場合は access to it であるべきだし, 仮に動詞として用いるとしても accessing または to access でなければならない。よって誤り。
- [b] more is always better 「多いことは常にいいことである」は, more のあとには knowledge が省略されていると考えてもよいが, more is always better でまとまった表現と考えてもいいだろう。いずれにせよ, more 単体で主語になることはないから誤りだと結論してはならない。
- [c] we would rather not know 「知らないほうがむしろいい」は, things に係る関係代名詞節中にある。would not rather know という語順が正しいのではないかと思ってこれを選んだ人がいるかもしれないが, not はこの位置で正しい。rather not という語順は文法問題で問われることもあるので気をつけよう。
- [d] only some of us should know 「我々の一部のみに知っているべき」は, 文法上まったく問題がない。
- [e] who are too ignorant to vote 「あまりに無知で投票しない」は too 形容詞 to do という有名な構文であり, 文法上の問題はない。

(24) **正解は b**

- [a] information and ideas we produce 「我々が生み出す情報や考え」は関係代名詞の which が we の前に省略された形である。
- [b] we make them available では文が完成しており, 抜けている部分がない。このままでは the more people の部分が宙に浮いてしまっているので, available for / to のようにすると文法的に整合が取れる。them は information and ideas を指す。文全体は「the 比較級, the 比較級」の構文である。
- [c] in institutions whose purpose is 「その目的が～である機関に対する」の in は investment に続く前置詞である。investment in~で「～への投資」という意味になる。
- [d] We grant these institutions all kinds of protections「こうした機関にあらゆる保護を与えている」は, grant

AB で「A に B を与える」といった意味になるため文法上意味が通る。

[e] the way we want them to 「我々が彼らにそうあってほしいあり方で」は to 以下に動詞がないため間違っていると判断して選んだ人がいるかもしれないが、この to は代不定詞と呼ばれ動詞の繰り返しを避けるため動詞を丸ごと省略する。ここで省略されている動詞は直前の work 「機能する」である。

(25) 正解は a

- [a] この形ではまったく意味をなさないが、are と some を入れ替えると倒置の構文となって意味がとおり、「我々の民主主義に対する期待もそうである」という意味になる。so V S 「S も V する」という形は基本的なものなので覚えておこう。
- [b] or even to define 「定義することすら」or は to measure と to define を結んでいる。どちらも success can be hard の hard にかかる。よって文法的に説明ができる。
- [c] a lot of not-so-good ones 「多くのできの悪いもの」not-so-good が 1 つのまとまった形容詞として使われている。bad を用いると先人の業績を批判しているかのようになるため、表現を筆者なりの工夫で和らげているのだろう。ones は ideas and scientific claims のことである。
- [d] これを選んだ人もいるかもしれないが、実は挿入句として意味を成している。全体は the system にかかり、直訳すれば as large and diverse as it is 「今こうであるのと同じように大規模で多様であるが」となる。it は the system を指す。形容詞が 2 つあるが、お決まりの as+形容詞+as の構文である。意識すると「いまこれほどまでに大規模かつ多様になっているが」となる。全訳では意識を採用した。
- [e] that it is enabling us 「それは我々に～を可能にしているということ」ここでの that は、believe の目的語となる believe that の that である。it は the system のことである。enable を現在進行形で使っていることに違和感を覚えたかもしれないが、[a]と比較して誤りがより深刻なほうを選ぶと、やはり[a]となる。

### 表現

put A to use 「A を実用化する」

unevenly 「不平等に、一様でなく」

grant A B 「A に B を与える」

(佐藤寛司, 吉田涼佑)

## B

出題範囲	英文和訳
難易度	★★★★☆
所要時間	16分
傾向と対策	(ア) asked to 以下や (イ) seldom is の倒置がやや難しかったかと思うが、全体としては標準的な問題であった。文章全体としては内容的には抽象的すぎることもなく読み取ることができたであろう。和訳問題では、構文に沿った和訳を意識しながら、日本語的に意味の通る文になっているかに注意して解くことが必要である。意味が通っていれば日本語の巧拙よりは、構文との整合性を意識して解答を書くよう心がけてほしい。

## 本文訳

1990年代のアフガニスタンのニュースは、過激派の軍事集団によって破壊された、廃れた地以外ほとんど報道しない傾向にあった。そうした印象が日常生活への洞察によって相殺されることはほぼなかった。特に危険な場所では共同滞在し、個々の出来事のみを報道することが多い報道陣によって交戦中の国々は描写される。(ア)カブールでは、そこを訪問していたテレビスタッフは一様にその都市の最も損害が大きい場所に連れて行ってもらえるように頼んだ。ある記者はカブールを「90%破壊されている」とまで表現した。

戦争というのは事態を複雑にするもので、戦争のもつ不気味な魅力によって、さほど劇的でないニュースは目立たなくなってしまいやすい。戦争は正確に伝えるのが難しいことで知られている。戦闘は現れては消えるもので、現代の戦争は自身の意思をもつかのような予想だにしない動きをみせる。重要な戦闘は夜通し行われ、風景に溶け込んでいる。(イ)いわゆる戦闘地帯でさえ必ずしも危険な場所であるとは限らず、大多数の報道が示唆するほどの広範囲に及ぶ戦争であることもめったにない。

しかしその国を正確に描写するにはより根深い障害があった。アフガニスタンは、部外者にとっては、割れた鏡のようであり、その国を観察する人によって広い視野が広がることもあるし、ほんの一部分しか見えないこともある。(ウ)平時でさえアフガニスタンはほんの短い期間しか部外者に対して開かれていなかった。その期間とは1960年代から1970年代までの、今はもう忘れられた期間である。アフガニスタンは単一国家であったことはなく、歴史的にも類を見ないほど人種と文化が混ざり合っている。そしてそうした人種や文化それぞれが慣習、言語、世界観といった宝をもつのである。

## 解答例

(ア)

(例1) カブールでは、そこを訪問していたテレビスタッフは一様にその都市の最も損害が大きい場所に連れて行ってもらえるように頼んだ。

(例2) カブールでは、そこを訪問していたテレビスタッフは口をそろえてその都市の最も損害が大きい場所

まで案内してもらえようように頼んだ。

(イ)

いわゆる戦闘地帯でさえ必ずしも危険な場所であるとは限らず、大多数の報道が示唆するほどの広範囲に及ぶ戦争であることもめったにない。

(ウ)

(例 1) 平時でさえアフガニスタンはほんの短い期間しか部外者に対して開かれていなかった。その期間とは 1960 年代から 1970 年代までの、いまはもう忘れられた期間である。

(例 2) 平時でさえアフガニスタンはほんの短い期間しか部外者に対して開かれていなかったが、その期間とは 1960 年代から 1970 年代までの、いまはもう忘れられた期間である。

### 解説

(ア)

visiting television crews が主語、invariably は「一様に」という意味の副詞であるがこの単語の意味を知らなかった人もいたかもしれない。〈単語の意味がわからないときには接頭語等を分けて意味を推測する〉という考え方を試してみるとよい。ここでは、打消しの接頭語 in をつけた variably (多様に) → 「一様に」と推測できる。ask 以下は ask to do 「～させてほしいと頼む」という用法と to be taken 「連れていかれる」が合わさったものであり、少々分析しづらかったかもしれない。ask は ask 人 to do 「人に～してくれるよう頼む」と ask to do 「～させてほしいと頼む」という用法があるが、前者しか知らないという受験生もいただろう。しかし前者の用法では「人」を省略することができない。よって、この問題の ask to be taken は後者の ask to do 「～させてほしいと頼む」の形であると判断できる。

(イ)

Even a so-called war zone が主語であることはわかるであろう、ここでの Even は名詞句全体にかかる。not necessarily は部分否定で「～とは限らない」という意味を表す。seldom is~ の構文はやや取りづらかったかもしれないが、これは否定の倒置である。もとに戻すと a war is seldom as comprehensive as the majority of reports suggest となる。このように否定の副詞が文頭にきて主語の倒置が起こることはしばしばある。〈否定の副詞句が文頭にある場合は主語述語の倒置が起こっていると考える〉ことは英文を読むうえでの基本的な考え方である。倒置のままでわかりにくければ解説のようにもとの文の形に戻して考えればよいだろう。あとは comprehensive 「包括的な、総合的な、広範囲にわたる」の単語の意味が重要である。comprehensible 「理解できる」と混同しないように気をつけたい。有名な用例として、Comprehensive Nuclear Test Ban Treaty (CTBT) 「包括的核実験禁止条約」がある。

(ウ)

訳しやすい問題である。Even in peacetime が副詞句であり、以降は Afghanistan を主語とする過去完了の文である。この問題は構文も表現も大学受験の一般レベルであるので確実に得点しておきたいところである。最後の only a brief interval, a forgotten period~の同格の表現は、解答例のように文を 2 つに分けて訳してもよいし、「ほんの短い期間、それは 1960 年代から 1970 年代までの～期間であるが～」のように 1 文にまとめてもよい。

**表現**

report 「報道，記事」：cf. reporter 「記者，アナウンサー」

portray 「を描写する」

ruin 「台無しにする，壊す」

extremist 「過激派」

crew 「一団，一同」

overshadow A 「A を陰らせる，見劣りさせる」

notorious 「悪名高い」

come and go 「行ったり来たりする，見えたり隠れたりする，移り変わる」

overnight 「一晩中，夜通し」

comprehensive 「包括的な，総合的な，広範囲の」

improbable 「起こりそうにない，ありそうもない」

(安藤成希，山藤孝介)

## 2016 年度 東京大学 前期 英語

## 第 5 問

出題範囲	長文読解
難易度	★★☆☆☆
所要時間	20 分
傾向と対策	<p>今年度は物語ではなく、随筆だったので比較的読みやすかったのではないだろうか。凝った表現もなく、物語を読むのが苦手な人にとっては当たり年だった。反ホームレス運動に対する筆者の意見が、筆者の経験とともに書かれている。</p> <p>問題の形式は日本語訳、空所補充、内容説明など、例年と変わりなかった。(A) は「具体的に」がどれくらいの範囲まで指しているのかを取るのが難しかったが、そこは解答欄と相談しながら適切な長さにするとよいだろう。(B) は「何が何のため」だったのかが問われているので設問の形式に合わせて解答を作るのが好ましい。(C) 23~25 ページから適切な単語を選べといわれている。そんなの範囲が膨大過ぎるだろう！と思いパニックになってしまった人もいるかもしれないが、範囲が文章全体ということは、大体思いついた単語は文中にあると考えてもよいので、適切な単語を文中から探そうとするのではなく、まずは下線部の意味や、文脈から当たりをつけて解き始めるようにしよう。(D) の (ア) が今年度においては一番難しく、解くの時間がかかっただろう。どうしても苦手な場合は間違えても仕方ないと考えて、時間がなかったら後回しにしてしまってもよいだろう。(ウ) は時間がなければ、何も考えずに others と us の両方が含まれる（つまり全員）選択肢を選んでしまおう。</p>

## 本文訳

昨年、私の家からさほど遠くないところにある、ロンドンの住宅団地の外の「反ホームレス」用スパイクの使用に対する大規模な民衆の抗議運動があった。スパイクはコンクリートに打ちつけられた鋭い金属の突起で、人が地面に座ったり寝転がったりしないようにするためのものだった。ソーシャルメディアは怒りの声で溢れ、請願書に署名がなされ、寝泊り抗議が行われて、数日のうちにスパイクは取り払われた。しかし、「防御的」「非友好的」建設物が建てられる現象は、周知のように依然としてよくみられる。

バスの停留所にある前のめりの椅子から水散用スプリンクラー、硬いチューブのような形状の台、硬いひじ掛けのある公園のベンチまで、都会空間は柔らかい人間の体を激しく拒絶している。

ロンドンであれ東京であれ、都会環境において我々はこのような措置をいつも目にしているが、我々は<sup>(A)</sup>それらの本当の目的を捉え損ねている。2009 年に自分もホームレスになるまで私はそれらにほとんど気づかなかった。経済危機、家族の死、突然の離婚、そしてそれよりさらに急な精神崩壊によって、たったの 1 年で、かなり多い収入を得る人間からホームレスにまで成り下がってしまった。寝泊りする場所を探すという明確な目的をもって自分の周りを見回すようになったそのとき初めて、都市の残酷さが明らかになった。

その当時、私はロンドン地下鉄の環状線を好むようになった。ほかの人にとっては地下鉄網上のどちらかとい

うと役に立たない路線に過ぎなかった。しかし私にとって、そして多くのホームレスにとって、それは安全で雨に濡れない暖かい箱で、まるでロンドンの中心部をその場所に縫いつける大きな針のように、ある時は地上を、ある時は地下をずっと走り続ける電車だった。だれも私にちょっかいを出さなかったし、私を追い出そうとしなかった。私は貧困状態のまま旅をすることができた。しかし延伸工事によってそれは終わってしまった。

次は、大通りから少し外れたところにある小さな公園にあるベンチだった。それは古い木製のベンチで、何千もの人が座ったことで表面が滑らかになっていた。ベンチは何層にも折り重なる葉の見事な木の下にあったので、よほどの長雨でない限り雨水が入ってくることはなかった。屋根があり暖かく、これは極上の物件だった。しかしある朝それはなくなってしまっていた。そしてその場所には代わりに、座り心地の悪い、3つの硬いひじ掛けがついた金属性の腰かけがあった。私はその日大きな喪失感を味わった。メッセージは明確だった。私は市民の一員ではなく、少なくともここに歓迎されるような市民ではない、ということだ。私はほかに行く場所を探さなくてはいけなくなった。

より広範囲にわたる問題もある。これらの手段はホームレスと、援助を受けるに値するとみなされているそれ以外の人とを区別することはなく、またできない。バス停で貧困者が疲れた体を休められないようにしてしまうと、休憩を必要としている高齢者、障害者、妊娠中の女性も休めなくなってしまう。都市を人間の体を受け入れない場所にするによって、我々は都市をすべての人間にとって友好的でない場所にしてしまっている。

非友好的な建造物はさまざまなレベルにおいて現れる。というのも、それは偶然や考えなしに生まれたものではなく、熟慮の末の産物だからである。それは脅迫し排除するという明白な動機によって、考えられ、デザインされ、承認され、出資され、実現される、不親切さの一種なのだ。

最近、私が近所のパン屋に入るときに、ホームレスの男性（それまでに何度か見たことがあった）が何か食べるものを持ってきてくれないかと聞いてきた。レジで働いている若い女性の1人、ルースにミートパイを2つほど別の袋に入れてほしいことと、<sup>(B)</sup>その理由を話すと、彼女の反応は厳しかった。「あいつは多分物乞いをすることであなたよりも稼いでるわよ、わかってるでしょ？」彼女は冷たく言い放った。

たぶん彼は私より稼いでいない。彼の顔の半分は赤く腫れあがっていた。黒ずみ、ひどいけがをした親指が、履き古した靴の穴から飛び出ていた。最近事故にあったのか喧嘩でもしたのか、左手は乾いた血にまみれていた。私はそのことを指摘した。ルースは私の主張を聞いても動じなかった。「そんなことはどうでもいいの」彼女は言った。「あいつらはね、緑地を汚すの。危険な生き物よ。けだものみたい。」

非友好的な建造物が支持しているのは、まさしくこの考え方である。ホームレスは人間とはまったく異なる種であり、下等で、没落したのは自業自得だ、そういう考え方だ。追い払われるべきハト、鳴き声で我々の睡眠の邪魔をする都会のキツネのように。「恥を知りなさい」パン屋で働く年上の女性、リビーが割って入った。<sup>(C)</sup>「彼だって人の子なのよ。」

貧困は現実と並行して、しかし分離して存在している。都市設計者はそれが我々の視界に入らないようになり努力している。玄関の前で眠っている人を見て、それを「誰かの子ども」だと考えるのは、ひどく惨めで、やる気がそがれ、耐え難いことである。それよりはそういう人を見て、<sup>(31)</sup>「彼がホームレスだからといって、私

「にどんな影響があるというの？」とだけ問いかけるほうが簡単である。だから我々は都市設計に協力し、見たくないがために、見ないように努力するのだ。我々はこの隔離政策に静かに賛同している。

防御的建造物は貧困を目に見えないようにする。快適な生活を送っていることへの罪悪感をすべて隠してしまう。貧困全般、特にホームレスに対する我々の態度を容赦なく暴く。共同体全体としての寛大な精神の欠落を、コンクリートとスパイクを用いて、具体的にかつ排他的に表したものののだ。

そしてもちろん、我々がより安心して暮らせるようにする、という基本的な目標すらもそれは達成できていない。<sup>(32)</sup>我々を閉じ込めないで、誰かを締め出す方法はない。都会の環境を非友好的にすると、冷淡さと孤独が生まれる。我々全員にとって人生が少し醜いものになるのだ。

### 解説

(A)

### 解答例

防御的、非友好的な建造物を設置することによって、都市の公共の場からホームレスを排除しようとする意図。

their true intent「彼ら（それら）の本当の意図」の their が指すものを最初に考えたい。この段落で their が指し示すことができるのは these measures「これらの手法」であることは明らかだ。では、次に these measures が指すものを考えたい。these measures は第 2 段落にあるさまざまな具体例を指しているが、これらは何の具体例なのだろうか。第 1 段落にはホームレス対策でスパイクを設置した例が示されたあと、そのような建造物を defensive or hostile architecture「防御的、非友好的な建造物」と呼ぶと書いてある。よって第 2 段落の例もこの defensive or hostile architecture だと考えればよいだろう。したがって「それら」＝「これらの手法」＝「防御的、非友好的な建造物を設置すること」となる。

では true intent が何なのかを考えよう。第 1 段落で「防御的、非友好的な建造物」が anti-homeless のためのものだとのあるので、「ホームレスを排除すること」とするのがよいだろう。また、第 2 段落の例から、これらの手法が、バス停や公園などの都市の公共の場でとられていることから、「ホームレスを都市の公共の場から排除すること」とする。

傍線部が含まれる段落で筆者のホームレス体験談が語られていることからホームレスに関する内容だと推測できる。

よってまとめると、「防御的、非友好的建造物を設置することによって、都市の公共の場からホームレスを排除しようとする意図」となる。

(B)

### 解答例

ミートパイを 2 つほど別の袋に入れてもらうようにパン屋の店員に頼んだのは、食べ物を恵んでくれないか頼んできたホームレスの男と自分の 2 人分が必要だったからだ、と説明した。

まず explained why が筆者のどの行動に当たるのかを考える。とりあえず下線部が含まれる文を訳してみると、「レジで働いている若い女性の 1 人、ルースにミートパイを 2 つほど別の袋に入れてほしいことと、その理由を話すと」とあるので explained why he asked Ruth to put a couple of meat pies in a separate bag であることは明らかだ。ここで、ルースのことはパン屋の店員と表現するほうがよいだろう。(ルースが誰なのか説明がないと、解答内で説明が完結せず採点者によくはない印象を与える可能性がある。)

次に筆者がそう頼んだ理由を考えたい。段落の最初に「私が近所のパン屋に入るときに、ホームレスの男性が何か食べるものを買ってきてくれないかと聞いてきた」とあるので、これが理由なのは明白だ。しかし、「ホームレスが食べ物を恵んでくれないかと頼んできたからだ、と説明した」とだけ書くのは不十分である。なぜなら、その場合ホームレスの分だけのパンを買うのであれば袋を分ける必要がなく、十分な説明にはならないからだ。したがって、最後の部分は筆者自身のパンと区別する必要があるという意味で、「2 人分」などのニュアンスを出すことが必要だろう。

また、「何が何のためであったと説明したか？」という問題なので、問題の形式通りに答える必要があることに注意しよう。

以上を踏まえてまとめてみると、「ミートパイを 2 つ別の袋に入れてほしいとパン屋の店員に頼んだのは、食べ物を恵んでくれないか頼んできたホームレスの男と自分の 2 人分が必要だったからだ、と説明した」となる。

(C)

解答例

human

That is someone's son you're talking about を直訳すると、「あなたがいま話題にしている人は誰かの子どもだ。」となる。これはパン屋の店員のルースがホームレスの男についてひどいことを言っていたために、リビーという別の店員が諫めていった言葉だ。

第 9 段落の最後にルースは「あいつらはね、緑地を汚すの。危険な生き物よ。けだものみたい。」と言った。そして第 10 段落ではホームレスとは「人間とはまったく異なる種であり、下等で、没落したのは自業自得だ」であり、「追い払われるべきハト、鳴き声で我々の睡眠の邪魔をする都会のキツネのような」ものだという考え方が非友好的な建造物を作る、といている。これらから、ホームレスは人間とみなされないことがうかがえる。そしてリビーは“You should be ashamed”と言い、このような考え方をすることについて恥じるべきだといっているのだ。つまり The man you're talking about is someone's son は「あなたはいま誰かの子ども＝人間について話している」といいたいのだろう。

ここで、穴埋め文にある no less A than B という表現は「B と同様に A である」という意味である。よく出てくる表現ではあるが、この意味を取り違えると正しい解答ができなくなってしまうので覚えておこう。

よって、空所に当てはまるのは human となる。(第 9, 10 段落では人間と動物の対比が多く出てきている。)

The man you're talking about is no less human than you are 「あなたはいま、あなたと同じ人間について話

しているのよ。」という意味になる。

(D)

(ア)

(26) **正解は h**

第 2 段落では都市の公共の場においてみられる防衛的、非友好的な建造物の例が挙げられている。そしてバス停の傾いた椅子から硬いひじ掛けのあるベンチにいたるまで、都会の空間は柔らかい人間の体を激しく（ ）している、とある。ここでは hard な建造物と soft な人間の体が対比されている。スパイクの例からわかるようにこうした建築物は人をその場所に居づらくさせる。選択肢を見ると rejecting がこの建造物の作用に最も合致していそうである。よって h) rejecting 「拒絶している」が正解。

(27) **正解は d**

筆者はホームレスになり、自分の身の回りを寝泊まりする場所を（ ）という明確な目的をもってみるようになって初めて都市の厳しさがわかったと述べている。これは日本語から考えても d) finding 「探す」以外当てはまらないことがわかるだろう。そのあとに続く段落で筆者がさまざまな場所を転々としながら、寝泊まりするのにふさわしい場所を探している様子からも明らかである。

(28) **正解は c**

6 段落冒頭では、これらの手法（非友好的な建造物を作ること）にはホームレスが居場所をなくす以外にも広い問題がある述べている。ホームレスと、ホームレスよりも（ ）と思われる人とを区別することができない、というのだ。「ホームレスよりも（ ）と思われる人」の例として「高齢者、障害者、妊婦」が次の文に挙げられている。貧しい人がバス停で体を休められないようにすると、同時に「高齢者、障害者、妊婦」なども体を休められなくなってしまう。「高齢者、障害者、妊婦」は休息を必要とし、バス停の椅子などの公共設備を受けるに値するにもかかわらずだ。よって正解は c) deserving 「(援助)に値する」。

(29) **正解は a**

(29)を含む文を訳すと「都市が人間の体を（ ）しないようにしていくにつれて、我々は都市をすべての人間にとって友好的でない場所にしてしまっている」となる。この段落では、都市をホームレスにとって住みにくい場所にする事によって、ホームレス以外の人も暮らしにくい場所になってしまう、ということ述べている。人間が住みにくいということは、都市が人間にとって優しくないということであり、a) accepting 「受け入れる」が正解。「都市が人間の体を受け入れないようにしていくにつれて」となる。(26)の rejecting と対照的であるから比較的選びやすかったのではないか。

## (30) 正解は i

(30)が含まれる文をわかりやすく訳すと、「非友好的な建造物は、たまたまだとか考えなしに生まれたものではなく、熟慮の末の産物なので、さまざまなレベルにおいて（ ）である。」となる。さまざまなレベルにおいて「現れる」くらいの意味が入るだろうと推測できるが because 以下から強い根拠が得られそうにないので選択肢を 1 つひとつ見ていくしかない。残った選択肢は b, e, f, g, i, j だが e のさまざまなレベルで「強制的」というのは意味がわからないし、f の「暗に意味する」や j の「満足させる」も文として意味が通らなくなってしまう。残りは b「奪う」、i「現れる」となるが b は何を奪うのかが示されていないので意味が通りにくい。したがって i) revealing が正解となる。

## (イ) 正解は e

## 選択肢訳

- a このホームレスを見ると、私の心が乱れる。
- b 彼がホームレスだと、みんなに強い影響がある。
- c このホームレスにどんな手助けをしてあげられるだろうか。
- d このホームレスに、玄関先で眠る権利はない。
- e このホームレスは私の人生にとって何か関係あるだろうか、いやない。

下線部を直訳すると「彼がホームレスだからといって私にどんな影響があるというのだろうか」となる。ホームレスを見て同じ人間だと考えるのはあまりにも惨めで、やる気がそがれ、耐え難いので、それよりは「彼がホームレスだからといって私にどんな影響があるというのだろうか」と問いかけるほうが楽だといっている。貧困を視界に入れないように我々は努力しているのである。この文が反語になっていることに注意しよう。つまり、ホームレスだろうが自分には関係ないという意味である。

- a ホームレスをみて、心が乱れるのが嫌だから、代わりに(31)と自分に問いかけるといい、といっているので、間違い。
- b みんなに強い影響があると考えないようにしたいので、これも間違い。
- c ホームレスを含む貧困を我々は見ないようにしているので、当然助けようなどとは考えない。
- d 権利がない、というのは下線部の訳とまったく関係がない。
- e 正解。ホームレスや貧困に対して見て見ぬふりをしようとする、とある。また、poverty exists as a parallel, but separate, reality とあることから、人々は貧困と自分とを切り離して関係のないものとして扱うことがうかがえるので、誰かがホームレスだからといって自分に影響があるとは考えないほうが楽なのだ。

## (ウ) 正解は a

## 選択肢訳

- a 防御的な建造物は我々全員を害する。
- b ホームレス問題を無視したからといってその問題はなくなる。
- c ホームレスに制限を課すのは、彼らのためである。
- d 我々が何をしようと、ホームレスはいつも我々の目に見えるところにいる。
- e 安全のために、我々はホームレスが視界に入らないようにしなくてはならない。

この問題は下線部の内容説明だが、この下線部が最終段落にあることから、この文章全体を踏まえて解いていきたい。下線部を直訳すると「我々を閉じ込めないで、誰かを締め出すことはできない」となる。この問題は locking others out と lock us in の 2 つの要素に分けて選択肢を見ていくと解きやすい。

まず、others が何を指しているかを考えるが、others は us 以外の人。この文章全体を通して we や us と表現されているのは「一般人（ホームレスでない人）」であることから、others はホームレスのことを指すことがわかる。よって locking others out は「ホームレスを追い出す」と訳することができる。文章全体から、ホームレスを追い出すために使われているのは defensive, hostile architecture であることがわかっている（第 7 段落では hostile architecture が threaten and exclude という動機をもとに作られたとある）。

次に下線部の周りにも目を向けてみよう。「defensive, hostile architecture は、我々（一般市民）が安心して暮らせるようにするという基本的な目標をも達成できていない（最終段落第 1 文）」。「(defensive, hostile architecture によって) 都市環境を非友好的なものにすれば、都市は固く閉ざされたものとなる（最終段落第 3 文）」。「defensive, hostile architecture によって我々全員にとって人生が少し醜いものとなる（最終段落最終文）」。これらの文から、defensive, hostile architecture によってホームレスを追い出そうとすると、同時に一般市民である我々も閉じ込めることとなり、都市がすべての人にとって住みにくい場所になってしまう、ということを下線部が言っていることがわかる（第 6 段落にも似たような記述がある）。

選択肢を見ていく際には locking others out と lock us in の両方に触れられているかどうかにも注目しよう。

- a 正解。一見下線部と一致しないようにも見えるが、us all で locking others out と lock us in をまとめてしまっているだけなので問題ない。また、主語として defensive architecture をとっているののも的確。
- b 確かに言っている内容としては正しいのかもしれないが、下線部内容と一致しない。locking others out を「others を視界、思考から外す= ignore」ととらえることはできるが、そうしてしまうと lock us in は「我々を視界、思考の中に閉じ込める」となり、make it go away とはとれない。
- c 内容が逆になっている。locking others out を「ホームレスに制限を課す」ととらえることはできるが、この選択肢では lock us in が無視されてしまっている。ホームレスのためになるという根拠もどこにも見当たらない。

- d 下線部にまったく一致しない。
- e locking others out にあたる keep homeless people out of sight はあるのだが、for security がおかしい。最終段落第 1 文で making us feel safer の目的も達成できていないとある。さらに we have to の部分も、ホームレスの排除に反対している本文の趣旨に反するからおかしい。

また、時間がない場合は、ホームレスとホームレス以外の 2 つについて書かれている選択肢にあたりをつけてしまっても問題ないだろう（下線部に両方のグループについて書いてあるから、どちらか片方だと不適）。そうすると、a が正解なのは一発でわかる。

**表現**

residential complex 「集合住宅」

petition 「請願書, 申請」

sleep-in 「住み込む, 寝過ごす」

persistent 「しつこい」

penetrate 「突き刺す」

prime 「最良の」

perch 「(座れる) 高い場所」

a couple of A 「2, 3 の A, いくつかの A」

remark 「発言, 所見」

foul 「汚す」

(井戸雅也, 大西功泰)